約束・・・。

ga-ikku

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

約束・・・。

【Ｎコード】

Ｎ３８９４ＢＡ

【作者名】

ｇａ－ｉｋｋｕ

【あらすじ】

現実なんてあいまいなことばかり・・・。だけどそのおかげで人は幸せにだってなれる。

学校帰り、三年間毎日のように乗り続けた自転車はキシキシと音を立てて前に進む。１０分ほど進めば大きな病院が見えてくる。ここに通わなくなって半年が過ぎた。いつもなら見るのも嫌で道を避けるのだが、今日はなぜかここを通ってしまった。まぁいいか・・・。

商店街の真ん中を突っ切って近道をはかったが、途中の信号に引っかかった。今日はやけに車どおりが少ない。信号など無視したいのだが、そうもいかずに自転車を降りた。ふと気づけばそこには同じ高校の制服を着ている女の子が同じく信号待ちをしていた。自転車通学ではないらしい。少し離れて隣に立ったのだけど、おそらく彼女の長い髪からだろうか、どこか懐かしい香りがしたような気がした・・・。

信号が青に変わり、いそいそと自転車をこぎだした僕はあっという間に横断歩道を渡り終わった。激しい車のエンジン音がして後ろを振り返る。半ば近くを歩く彼女と全力で角を曲がるスポーツカー、僕は自転車を捨てて全力で引き返した。僕の背中で揺れるリュックが鬱陶しい・・・。

スポーツカーは止まる様子もなく彼女に突っ込む。僕は彼女まであと一歩というところで飛び込んだ。
ゆっくりと顔を上げるとどうにか彼女と僕は助かったらしい。振り返るとそこにはもうスポーツカーの姿は消えてしまったかのようになくなっていた。不審に思ったがまずは彼女だ・・・。

「大丈夫？」そういって彼女の顔を覗き込んだ僕は氷の様に固ま

った。彼女はうっすらと目を開け、僕の右頬に手を伸ばした。「ごめんね。いっつも助けてもらってばかりで・・・。」僕は彼女を抱きしめた。「なんでっ。なんでお前がこんなとこにいるんだよ。」声が震えて前が涙でよく見えない。彼女はその細い腕で僕を抱きしめ返した。頼りないけどすごく心地いい懐かしい感触だ・・・。

「泣かないで。今日はお願いを言いにきたの。この場所で私に気づかなかったら、あなたに会えなかったけど、やっぱりあなたはちゃんと助けてくれた。」僕は抱きしめている腕をさらに強くする。「当たり前だろ。お前は俺の彼女なんだから・・・。」もう声になってない・・・。

「もういかなくちゃ。あなたにひとつ言いたいことがあるの。あのね・・・あなたが幸せにならないと私も成仏してやらないんだから・・・。」彼女の腕にも力が入る。僕は嗚咽で言葉が出ない。「だからお願い・・・もう私を思い出にして・・・。」彼女の声も泣いているのが分かった。徐々に彼女の感触が薄れていく感じがする。「待ってくれ。わかったからまだここにいてくれ・・・。」声を絞り出す。「大好きよ・・いままでほんとにありがと・・・。」彼女の感触がなくなった。

目が覚めた・・・。目覚ましはまだ3時をさしている。顔はまだ涙で濡れていた。だけど、後に残ったかすかなぬくもりと片方の手に握られた長い一本の髪の毛で僕は彼女との約束を果たそうと思った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3894ba/

約束・・・。

2012年1月10日02時56分発行